

## トマト灰色かび病の発生を防ぎましょう！

近年、県内の冬春トマトにおいて、灰色かび病の発生が多くなっています。平成24年産では、11月頃から発生し始め、翌年5月まで多くのほ場で発生が見られました。本病原菌は20℃前後で多湿条件になると発生しやすくなるため、今後、気温が下がりハウスを密閉すると、発生が増加するおそれがあります。また、多発すると防除が困難となります。**予防と初期防除**を心がけましょう。



写真1 葉に発生した灰色かび病



写真2 施設内の多湿による果実への結露

### 【防除対策】

- ・施設内が多湿にならないように、換気やかん水に注意する。
- ・暖房機利用や循環扇による通風などにより、植物体への結露（写真2）を防止し、施設内の湿度低下に努める。
- ・発病葉、発病果、花卉はすみやかに除去し、ほ場外で処分する。
- ・微生物防除資材（ボトキラー水和剤等）は発病前～発病初期の利用とする。また、低温条件では効果が出にくいので、温度管理に注意する。
- ・薬剤散布は予防主体に行い、化学農薬を使用する際には、薬剤耐性菌の発生を防ぐため、ローテーション散布を心がける。

表 トマト灰色かび病に登録のある主な薬剤（平成24年11月2日現在）

薬剤名	希釈倍率	使用時期／使用回数
サンヨール	500倍	収穫前日まで／4回以内
フルピカフロアブル	2,000～3,000倍	収穫前日まで／4回以内
セイビアーフロアブル20	1,000～1,500倍	収穫前日まで／3回以内
ベルコートフロアブル	2,000倍	収穫前日まで／3回以内
ボトキラー水和剤	1,000倍※	発病前～発病初期／－

※ダクト内投入をする場合：10～15g／10a／日

詳しくは、農業環境指導センター(<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>)までお問い合わせください  
また、当センター携帯サイト(<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/keitai.htm>)もご利用ください。

Tel (028) 626-3086 Fax (028) 626-3012